

■平成 29 年 5 月

平成 29 年 5 月 1 日～31 日の間、5 名の連邦議会関係者、4 名の米政府関係者、6 名の有識者等と面会いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

(1) 国務省分析官への着任挨拶及び意見交換(30 日)

国務省分析官と面談し米政府の動向について意見交換を行いました。引き続き協力を依頼し今後も連携を取っていくこととなりました。

(2) 大学教授との面談(26 日)

マイク・モチヅキ教授との意見交換を行いました。トランプ政権発足後の米政府の状況について説明を受けるとともに、今後の沖縄関係について、米政府への働きかけなど意見交換を行いました。

(3) 国防省担当者への着任挨拶及び意見交換(25 日)

国防省担当者と面談し日米関係について意見交換を行いました。引き続き協力を依頼し今後も連携を取っていくこととなりました。

(4) 上院歳出委員会国防小委員会公聴会の傍聴(24 日)

ダークセン上院議員会館で行われた上院歳出委員会国防小委員会公聴会の傍聴を行いました。シーン J.スタックリー米海軍省長官代行、ジョン M.リチャードソン海軍作戦部長、ロバート B.ネラー米海兵隊総司令官の 3 名が証人として出席しました。なお、同小委員会のタッド・コ克蘭委員長(共和・ミシシッピ州選出)は、これまで二度、知事と面談しています。

委員会の質疑では、委員のブライアン・シャーツ上院議員(民主・ハワイ州選出)から、在沖海兵隊のグアム移転を含む米軍再編計画に関連する質問があり、ネラー総司令官からは、現在は、普天間代替施設建設計画や海兵隊のグアム計画に沿っているとしました。一方、ネラー総司令官からは、航空機の一時配備先に関するハリス太平洋軍司令官の発言の紹介がありました。

この発言を速報として本庁に報告するとともに、県内で大きく報道されたことから、ワシントン事務所は発言の趣旨について情報収集を行いました。



公聴会の模様



質問するシャーツ議員

(5)ブルッキングス研究所 主催行事の傍聴(22日)

ブルッキングス研究所主催のシンポジウム「軍の即応体制、近代化、及び革新に関するマック・ソーンベリー下院議員との対話」を傍聴しました。ソーンベリー下院議員は、下院軍事委員会委員長を務めています。大統領の予算案の発表を翌日(5月23日)に控え、両者が外交・防衛施策の行方について話し合いました。ソーンベリー議員は、トランプ政権のものを上回る軍事予算案を示しました。シンポジウム終了後、ソーンベリー議員の記者対応の中で沖縄に関することについて速報として本庁に報告しました。また、同議員と対話を行ったマイケル・オハンロン・ブルッキングス研究所上席研究員に就任の挨拶を行いました。



ソーンベリー下院軍事委員会委員長(右側)

(6)ウィリアム・ハガティ氏に係る上院外交委員会承認公聴会の傍聴(18日)

トランプ大統領から駐日大使に指名されているウィリアム・ハガティ氏に係る上院外交委員会の承認公聴会を傍聴しました。ハガティ氏からは、(基地を)受け入れている地域との強固な関係を引き続き構築していくという発言がありました。また、沖縄県と日本政府の間の緊張について、心にとめる必要があり、さらに、地域社会の関係者とも会う用意がある認識を示したことについて、速報として本庁に報告しました。



ハガティ氏(中央)

(7) 上院議員の居室訪問(18日)

上院議員の居室を訪問し今後、意見交換していきたい旨を伝えました。

(8) 国務省日本部長への着任挨拶及び意見交換(15日)

国務省日本部長と面談し沖縄の状況等について意見交換を行いました。引き続き協力を依頼し今後も連携を取っていくこととなりました。

(9) 連邦議会調査局への着任挨拶及び知事訪米対応のお礼(10日)

調査局関係者に着任挨拶及び知事訪米対応のお礼をし、沖縄の状況等について意見交換を行いました。

(10) 笹川平和財団米国主催行事の傍聴(2日)

笹川平和財団米国主催行事「笹川米国主催第4回安全保障年次フォーラム」の傍聴を行いました。デニス・ブレア・笹川米国会長兼上級特別研究員、ダニエル・ラッセル元国務次官補(東アジア太平洋担当)、クリス・ジョンストン国防長官(政策担当)室北東アジア担当部長から、沖縄に関する発言がありました。

行事終了後、笹川財団 USA の CEO ズムワルト元駐日臨時代理大使、シーラ・スミス上級研究員(CFR)に就任の挨拶を行いました。

(11) CSIS(戦略国際問題研究所)主催シンポジウムの傍聴(1日)

CSIS 主催のシンポジウム「トランプ政権に対する日本の戦略」を傍聴しました。終了後、マイケル・グリーン CSIS アジア・日本担当上級副理事長、及びケビン・メア氏に就任の挨拶を行いました。

■平成 29 年4月

平成 29 年4月 1 日～30 日の間、2 名の米政府関係者及び 5 名の有識者等と面会いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

(1) 有識者との面談(26日)

CSIS 副部長兼シニア・フェローであるニコラス・セーチューニ氏との面談を行い、米政権の動向について伺いました。今後も意見交換を行うこととなりました。

(2) 在アメリカ合衆国日本国大使館担当参事官との面談(20日)

在アメリカ合衆国日本国大使館担当参事官へ着任の挨拶を行い、米政権の動向について、情報収集を行うことができました。

(3) 国防省関係者との面談(7日)

国防省元次官補のグレグソン氏と面談を行い、同氏が長く関わる西普天間の跡地利用、そして直近に公表された GAO(アメリカ会計検査院)レポートも含め、見解を伺いました。西普天間の基地跡地は、日本の高齢化、沖縄の経済発展、教育への貢献も見据えていること、沖縄の土地の返還を進める必要があること、辺野古に普天間の代替施設を建設する案はアメリカにとっても完璧なものではなく、日本においても完全な満足を得るものではない等の見解が示されました。

(4) 国務省関係者との面談(5日)

国務省分析官と面談いたしました。米政権の動向について、情報収集を行うことができました。